

おかちまち たいとう

台東区立御徒町台東中学校 学校だより 第2号

令和7年5月27日(火)

校長 福沢 俊之

TEL 03 (3831) 3787

学校ホームページ



<https://www.taito.ed.jp/1320111>

↑更新中

本当の「豊かさ」とは

校長 福沢 俊之

先日、「世界でいちばん貧しい大統領」と呼ばれた南米ウルグアイの元大統領ホセ・ムヒカ氏が亡くなったというニュースを聞きました。私がホセ・ムヒカ氏の名前を知ったのは、8年ほど前に新聞の紹介記事で「ホセ・ムヒカ 世界でいちばん貧しい大統領」(角川文庫)という本を知ったのがきっかけでした。久しぶりにその本を手にしなが、朝礼で生徒たちに話してみようと思ったのです。

2010年から5年間、大統領を務めたムヒカ氏がなぜ「世界でいちばん貧しい大統領」と呼ばれるようになったのか。それは、大統領在任中でも公邸に住むことなく、自宅のある郊外の農場での生活を続け、友人からもらった中古車に乗り、報酬のほとんどを寄付し、努めて質素な暮らしぶりを続けてきたことによるといいます。ただ、その名が世界から注目されるようになったきっかけは、2012年にブラジルで開催された「国連持続可能な開発会議(リオ+20)」でのスピーチでした。現代の大量消費社会を「決して持続可能ではない」と厳しく批判したこのスピーチの中で語った言葉が多くの人の共感を得ました。それは「貧乏な人とは、少ししか物を持っていない人ではなく、無限の欲があり、いくらあっても満足しない人のことだ。」という言葉です。大量消費社会、すなわち、人がお金を使って多くのものを買って使う、そのために多くの物を生産する、そのために大量のエネルギーを消費し環境にも影響を及ぼす。多くのお金が動き経済が活性化するが、こうした循環は、本当に持続可能なのか、本当にそれで幸せになれるのか、とムヒカさんは訴え続けてきました。

「貧しい」という言葉の対義語に「豊か」という言葉があります。では「豊か」とはどのような有り様なのでしょう。ムヒカ氏の言葉を思い起こせば、物質的に恵まれているから「豊か」ではなく、私は、「物を大切にすることによって豊かになるのだと思うのです。私たちは、日頃、自分が使っている物、文房具、鞆、服など、大切にしているでしょうか。毎日食べている食べ物を大切にしているでしょうか。どんな物でも大切に使っていれば愛着が湧いてくる、生き物と同じように「命」があるようにも思えてくる、使い切れれば感謝の気持ちも湧いてくることでしょう。それが「豊か」、すなわち「心の豊かさ」だと思うのです。

朝礼の中では紹介できなかった本「おじいちゃんが教えてくれた人として大切なこと」(アルン・ガンジー)があります。インドをイギリスからの独立に導いたマハトマ・ガンジーの孫が祖父からの教を11の「レッスン」にまとめたこの本の中に、「ものを粗末にするのも暴力」という章があります。短くなった鉛筆を道ばたに捨ててしまった孫が祖父からその鉛筆を探してくるように言われたというエピソードからこの「レッスン」は始まります。「短くなって使えない(と思った)鉛筆を捨てたこと」を「暴力である」と説くまでのプロセスは、ムヒカ氏の言葉にも深いところで関わっていると思ったのです。

日本の反対側の小さな国の大統領が国連の会議でスピーチした内容や世界史に名を残す人物の話で、私たちの日常から遠く感じるかもしれませんが、しかし、大切なのは、自分に引きつけて考えることができるか、よりよく生きる、心豊かに生きるための知恵にしてほしいと思い、話をしました。

令和7年度 入学式 新入生誓いの言葉

桜の花が咲き始め、温かい日差しが降り注ぐ季節になりました。

私たちは、たくさんの期待と少しの不安を胸に、御徒町台東中学校の入学式を迎えることができました。

本日は、このような素晴らしい入学式を行っていただき、ありがとうございます。新入生を代表して心よりお礼申し上げます。

私たちは、数日前までランドセルを背負い、それぞれの小学校に通っていました。

今日からは、この新しい制服を身にまとい、通学することとなり、御徒町台東中学校の一員になったことを実感しています。

私たち新入生は、これまでのステージから新たなステージへと階段を一步ずつ上り始めていきます。

これまでの十二年間の中では、様々な困難に直面し、不安な毎日を過ごしてきたこともありましたが、明日、自分の身や学校、地域社会がどのようになっているか分からない時を過ごす時期もありました。これから先の未来も予測困難であり、見通しがもてず、これまでの常識が常識ではなくなる時代とも言われています。

それでも私たちは前を向き、今できることに一生懸命に挑戦していきたいと思えます。

未熟な私たちは、時に不正解な回答をしてしまうことがあるかもしれませんが、不正解は無意味なことではありません。これからの三年間の中で、一つ一つの行動や言葉に意味を持たせられる人になれるよう努力してまいります。自分なりの正解を追い求めて、新たな友とともに成長していきます。

中学校生活では、勉強がさらに難しくなり、部活動も始まります。また一つ一つの言動に責任をもたなければならなりません。きっと大変なことも増えると思いますが、大きく変わるチャンスであるにとらえ、そのすべてを明日を生きる活力に変えていきます。

先生方、先輩方、地域の方々、保護者の皆様、どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

同級生の皆さん、みんなで、最高の三年間を過ごしていきましょう。

令和7年4月8日

新入生代表



台東区立教育支援館より

スクールソーシャルワーカー（SSW）にご相談ください

SSWは、児童・生徒の皆さんや保護者の方から、学校園や家庭での悩みごと困りごとを聞き、福祉に関する専門的な知識・技術を活用して、保護者の方と一緒に解決方法を考える福祉の専門職です。

家庭や学校園、地域の関係機関と協力、連携しながら、利用できる制度やサービスの情報提供、家庭訪問などをします。

ご相談の申込みは、在籍している台東区立の学校や園へお願いします。